

第7章 通信体系の整備方針

1. データ通信とデジタル化が研究や開発等の企業活動を加速させるまち
2. 未来の暮らしを支える快適かつ安全な通信環境の整ったまち
3. 仮想空間(バーチャル)も活用して都市活動を展開するまち

第7章 通信体系の整備方針

地区内の通信環境の整備にあたっては、IoTの導入やデジタル化の推進による新たな技術やアイデアの創出を促進するよう、通信環境は常に最先端技術を導入・運用し、その維持管理を含めた持続的な仕組みづくりを目指します。

また、快適かつ安全に未来の暮らしを支え、企業の活動を加速させるデータ通信や仮想空間等を活用したまちづくりを目指します。

1. データ通信とデジタル化が研究や開発等の企業活動を加速させるまち

【特徴】

- 街中の様々なデータを収集するセンシング技術やデータ活用技術は日々技術革新をしており、それを支える通信技術の超高速化・超大容量化・省電力化等の技術革新も進んでいます。
- 都市に存在する膨大なデータを蓄積・分析するとともに、他の自治体や企業、研究機関等と連携による快適かつ安全な住みよいまちづくりが求められています。

【方向性】

- 人々の暮らしや企業活動等の向上のため、地区内でのデータセンシング※を推進し、収集したデータおよび企業データ等を有機的に連携させ、AI等を活用して住民の利便性や満足度の向上に加え企業による研究・開発に活かすことができる仕組みの構築（ビッグデータの活用）を推進します。
※データセンシングとは、地域の課題解決を目指し、まちなかにセンサー機器を設置して、歩行者流動量や自動車交通量を計測する取組
- IoTの導入やDX（デジタル化の推進）による新たな技術やアイデアの創出を促進し、研究や開発等の企業活動を加速させるまちづくりを実現します。

2. 未来の暮らしを支える快適かつ安全な通信環境の整ったまち

【特徴】

- イノベーション拠点の形成に向けて、多分野にわたる研究や開発等の企業活動を支える情報通信技術は快適かつ安全・安定が求められます。

【方向性】

- 新たな技術を活用したサービスを享受するのに必要な通信環境の整備を推進します。
- 街中におけるデータセンシング等を通じて得られたデータの取り扱いにおいて匿名性の確保等、安全性が確保される仕組みの構築を目指します。

- ビジネス・業務・研究の通信を支えるネットワーク環境は、安定性・安全性が確保される仕組みの構築を目指します。

3. 仮想空間(バーチャル)も活用して都市活動を展開するまち

【特徴】

- V R技術等を活用した仮想空間（メタバース）上において空間の体験や投資等を行う技術が発達してきています。

【方向性】

- まちづくりの検討段階から、バーチャル上に現実同様の都市空間をつくり、現実では難しいシミュレーションを実施することで、正確な根拠に基づいたまちづくりを目指します。
- バーチャル上に現実と同様の都市空間をつくることで、まちびらき後の都市マネジメント（予測に基づいた渋滞対策・災害対策等）の精度を向上させます。
- 本地区は、世界中の人・企業・投資を呼び込むことによる経済の活性化を目指しており、限られた資源を活かして最大の経済効果を生み出すために、バーチャル上につくる現実と同様の都市空間（メタバース）を活用し早い段階からバーチャル上の関係人口増加を目指します。